



坂本ゼミナール

経済学部 坂本ゼミナール

「勉強」から「研究」へ

経済学部助教授 ●坂本 雅士

今日まで皆さんは受験等で多くの時間を「勉強」に費やしてきたことでしょう。これからは、「研究」にチャレンジしてください。

研究とは、勉強によって得た知識をベースに未知の真理を追求するための知的

作業です。そこには、独創性が要求されます。そして、その成果を論文として公表することが研究の目的です。次のように考えてもよいでしょう。解答があるのが勉強で、解答がないのが研究だと。よくあることなのですが、勉強には不向きでも研究には向いているという人がいます。もちろん、この逆もあります。自分はどちらに向いているか、こればかりはやってみないとわかりません。

また、大学は「出会いの場」でもあります。学生時代に知り合った友人は、生涯にわたり付き合うことができる友人になる可能性が高いといえます。おそらく、皆さんはまだ実感できないでしょう。

大学では、講義、ゼミナール、体育会、サークル等、様々な「場」が提供されます。このような「場」を有意義なものにするか否かは自分次第です。自らの意思で入学する以上、大学生活に積極的に関与して、良き師、先輩、仲間と出会ってもらいたいと思います。

プロフィール ●坂本 雅士(さかもと まさし)

経済学部会計ファイナンス学科助教授。1966年生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士課程単位修得。専門は租税法及び税務会計論。

●ゼミの内容●

会計・税務に関する研究。二年次に基礎知識を習得した後、三年次に共同研究を行う(2005年度テーマは「新会社法と会計参与制度」)。全国大学対抗簿記大会への参加(2005年度全国優勝)等、学外での活動も多い。体育会所属の学生も多数在籍。

■学生から一言

自分が「主体」になれる場

■経済学部経営学科4年次 高平 晴誉

大学生活に充実感を与えてくれるものって何?それは、「自分はこれをやり遂げた」と胸を張って言えるものを持つことではないだろうか。誰かに言われたことをするだけの毎日なんてあまりにもっていない。

ゼミナールには、学生一人ひとりが能動的になって初めて機能する、ゼミ生によるゼミ生のための空間が用意されている。そこでは、各自が自由に発言でき、ゼミ生同士の討論、先生からのアドバイスにより理解を深め、最終的に「論文」という形で研究成果をまとめることができる。主体的に行動することにより、実りある大学生活を過ごして欲しいと思う。

ゼミナールでしか味わえない「出会い」がある

■経済学部会計ファイナンス学科4年次 飯島 直美

サークルともアルバイトとも違った出会いができる、それが「ゼミナール」です。

私は、坂本ゼミナールで二つの出会いをしました。まず、「学び」との出会い。テーマに沿って、ゼミ生全員で研究し、論文にまとめる。一つのことをやりとげる達成感を味わえます。次に、「仲間」との出会い。楽しいことも、大変なことも一緒に経験し、乗り越えていく、そんな仲間がゼミナールにはいます!!

皆さんもぜひ、ゼミナールでしかできない出会いをして下さい。